



# ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2024年(令和6年)2月5日号 No.1948

## 目次

|                              |   |
|------------------------------|---|
| ■ 2023年のロシアの乗用車販売動向          | 1 |
| ■ 『ロシアNIS調査月報』2024年2月号のご紹介   | 8 |
| ■ キーパーソン                     | 9 |
| モルドバ外相が交代／9                  |   |
| ■ トピックス                      | 9 |
| 政府、中ロを念頭に武器転用確認義務の対象国拡大を検討／9 |   |
| EU、ロシアに追加制裁／9                |   |
| EU、500億ユーロの対ウクライナ支援で合意／10    |   |
| G7など、上限価格規制措置を強化／10          |   |

## 2023年のロシアの乗用車販売動向

### はじめに

欧州ビジネス協会(AEB)が2023年のロシアの乗用車販売データを発表したので、本号では早速このデータを図表にまとめてお届けする。

昨年1年間にロシア国内で販売された新車の台数は112万台余りで、中国メーカーの現地生産が進み、制裁下での輸入方法が確立されたことなどから、前年を58%上回り、2年ぶりに増加した。

欧州ビジネス協会(AEB)によると、2023年にロシアで販売された乗用車(新車のみ、小型商用車を含む)の台数は112万7,856台だった。これは前年の約6割増となり、2年ぶりに100万台を超えた。

2022年はロシアによるウクライナ侵攻で、欧米日メーカーの生産・輸入の停止や、生産に必要な部品の調達の困難で販売台数が大幅に落ち込んだが、2023年はその影響が緩和されるとともに、撤退した欧米日メーカーに代わって中国メーカーの進出が加速したことなどが主な要因である。

新車の販売の動きを振り返ると、西側諸国との関係断絶という新しい現実に対応すべく、転換を図った1年だった。1月に台数で3万2,499台と過去10年間で最低を記録したあと、制裁で生産の一時停止に追い込まれていた国内メーカーの生産が本格的に再開し、中国メーカーの現地生産の動きが広がり、加えて、ロシア経済が予想外に堅調であったことから、販売台数は上昇に転じる。4月の販売台数は5万台を回復した。

6月には販売台数が8万7,000台に一気に跳ね上がり、翌月には10万台を上回り、ロシア経済の堅調さや新しい現実への適応力が、注目を集めるようになる。7月以降、10万台以上をキープし、12月には前年同月比85%増の12万8,930台となり、侵攻前の水準に迫った。

AEBによると、2024年の販売台数は130万台と、2023年と比べて15%増える見通しである。